



JBoss Enterprise Application Platform 5

リリースノート

for Use with JBoss Enterprise Application Platform 5
エディション 1.0

JBoss Enterprise Application Platform 5 リリースノート

for Use with JBoss Enterprise Application Platform 5
エディション 1.0

Isaac Rooskov
irooskov@redhat.com

Laura Bailey

法律上の通知

Copyright © 2009 Red Hat, Inc.

This document is licensed by Red Hat under the [Creative Commons Attribution-ShareAlike 3.0 Unported License](#). If you distribute this document, or a modified version of it, you must provide attribution to Red Hat, Inc. and provide a link to the original. If the document is modified, all Red Hat trademarks must be removed.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux ® is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java ® is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS ® is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL ® is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js ® is an official trademark of Joyent. Red Hat Software Collections is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack ® Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本リリースノートには、現在の製品マニュアルには記載されていない JBoss Enterprise Application Platform 5.0.0 関連の重要な情報が含まれている可能性があります。本リリースノートをすべて読んでから JBoss Enterprise Application Platform 5.0.0 をインストールするようにしてください。

目次

1. はじめに	2
1.1. 概要	2
2. JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 5.0 の新機能	2
2.1. JBoss AS	2
2.2. JBoss Microcontainer	2
2.3. JBoss Cache	2
2.4. JBoss Web Services	2
2.5. Native パッケージ	2
3. コンポーネントのバージョン	3
4. インストールに関する注意	5
4.1. Installing JBoss Enterprise Application Platform	5
4.2. デフォルトの起動プロファイル	5
4.3. ソースファイル	5
5. 製品サポート	6
6. ドキュメント	6
7. 本リリースで修正された問題	6
8. 本リリースにおける既知の問題	7
9. TECHNOLOGY PREVIEWS	14
9.1. JBoss Web Services CXF	14
9.1.1. Known Issues with JBoss Web Services CXF	15
9.2. JBoss mod_cluster	15
9.2.1. Known Issues with JBoss mod_cluster	15
A. 改訂履歴	17

1. はじめに

本リリースノートには JBoss Enterprise Application Platform 5.0.0 に関する重要な情報が含まれています。新機能、既知の問題、リソース、その他の問題などが説明されています。

1.1. 概要

JBoss Enterprise Application Platform は次世代のオープンソースなエンタープライズソフトウェアです。純粋な Java プラットフォーム上で多機能で高性能な Web 2.0 アプリケーションの開発を行うためのパワフルなツールを求めている方に最適です。

さらに、JBoss Seam、Hibernate、Tomcat、JBoss Cache など最良のオープンソースフレームワークと統合することで、オープンソースコミュニティの革新技术を利用することができます。JBoss Enterprise Application Platform は Red Hat によって完全にテストされサポートされています。また、多くの企業向けハードウェアやソフトウェア製品に対応しています。

2. JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 5.0 の新機能

JBoss Enterprise Application Platform 5.0.0 は、更新や追加コンポーネントが多く含まれるメジャーリリースです。

2.1. JBoss AS

The JBoss AS 5.1.x family represents the state of the art, second generation Microcontainer based enterprise Java run-time and the latest release of the world's most popular application server. In addition to supporting the latest Java EE specification (Java EE 5), it integrates many of the best enterprise class services for advanced messaging, persistence, transactions, caching and high-availability.

2.2. JBoss Microcontainer

JBoss Microcontainer はモジュラ JBoss JMX マイクロカーネルのリファクタリングです。軽量のカーネルで、ローディング、ライフサイクル、POJO 間の依存関係を管理します。エンタープライズサービス、JBoss Microcontainer と Servlet/JSP コンテナ、EJB コンテナ、デプロイヤ、管理ユーティリティを統合するために使用され、標準の Java EE 5 プロフィールを提供します。

2.3. JBoss Cache

JBoss Cache は EJB と HTTP セッションをレプリケートするために使用され、パフォーマンスやスケーラビリティのエンベロップをより効率的な新しいロッキングスキーム (MVCC – MultiVersion Concurrency Control: 多版型同時実行制御) にプッシュしながら分散エンティティキャッシュをサポートします。

2.4. JBoss Web Services

JBoss Web Services は、最新の JAX-WS 仕様とプラグ可能なアーキテクチャをサポートするフレームワークで、指定の Web Services スタックを提供します。

2.5. Native パッケージ

Native パッケージは JBoss Enterprise Application Platform のオプションコンポーネントで、JBoss Native と mod_jk の技術を取り入れます。これらの技術の説明は次の通りです。

- JBoss Native は Apache Portable Runtime (APR)、 OpenSSL、 Tomcat Native (TC-native) によって構成されます。
 - Apache Portable Runtime (APR): 優れたスケーラビリティやパフォーマンスを実現し、ネイティブサーバー技術との統合を向上します。 Apache Portable Runtime は、 Apache HTTP Server 2.x の中心にある移植性の高いライブラリで、高度な IO 機能 (sendfile、 epoll、 OpenSSL など)、オペレーティングシステムレベルの機能 (乱数発生やシステム状況など)、ネイティブプロセスの処理 (共有メモリ、 NT パイプ、 Unix ソケット) など幅広く使用されます。
 - OpenSSL: SSL (Secure Sockets Layer: セキュアソケットレイヤ) プロトコルと TLS (Transport Layer Security: トランスポートレイヤセキュリティ) プロトコルを実行し、基本の暗号化ライブラリが含まれます。
 - Tomcat Native (TC-Native): Tomcat のコア機能を Java ではなくネイティブコードで提供する Java Native Interface (JNI) です。これにより、サーバー速度を全体的に向上することができます。
- mod_jk: Tomcat JSP コンテナと Apache など別のウェブサービスを接続するために使用するコネクタです。



注記

Red Hat Enterprise Linux 5 ではオペレーティングシステム自体に OpenSSL と Apache Portable Runtime が含まれているため、Red Hat Enterprise Linux 5 ディストリビューションの Native パッケージには OpenSSL や Apache Portable Runtime が含まれていません。

3. コンポーネントのバージョン

本項は、Enterprise Application Platform 5.0.0 を構成するコンポーネントのバージョンについて説明します。

表1 コンポーネントバージョンの違い

コンポーネント	EAP 5.0.0	EAP 4.3.0 CP06
JBoss Application Server	5.1.0.GA	4.2.0
JBoss Microcontainer	2.0.9.GA	1.0.2
JBoss Native	2.0.6.GA	対象なし
Hibernate Core	3.3.2.GA	3.2.4.SP1.CP08
Hibernate Entity Manager	3.4.0.GA	3.3.2.GA
Hibernate Annotations	3.4.0.GA	3.3.1.GA_CP01

コンポーネント	EAP 5.0.0	EAP 4.3.0 CP06
Hibernate Search	3.1.1.GA	3.0.0.GA
Hibernate Validator	3.1.0.GA	3.0.0.GA
クラスタ化リモート EJB3 プロキシ	1.1.18.GA	対象なし
JBoss Cache	3.2.1.GA	1.4.1_SP13
JBoss HA Server API	1.1.1.GA	対象なし
JBoss JAXR	2.0.1	1.2.0.SP2
RESTEasy	1.1.CP01	対象なし
JGroups	2.6.13.GA	2.4.6.GA
JBoss EJB3	1.1.18	4.2-Snapshot (技術プレビュー)
JBoss JTA	4.6.1.GA_CP03	対象なし
JBoss JTS	4.6.1.GA_CP03	対象なし
JBoss Negotiation	2.0.3.SP1	対象なし
JBoss Managed	2.1.1.GA	対象なし
JBoss Messaging	1.4.6.GA	1.4.0.SP3-CP08.patch01
JBoss Metadata	1.0.1.SP1	対象なし
JBoss Web	2.1.3.GA	2.0.0.CP10
JBoss Web Services - Native	3.1.2.SP3	対象なし
JBoss AOP	2.1.6.GA	1.5.5.GA_CP03
JBoss Remoting	2.5.2	2.2.3
JBoss Serialization	1.0.3.GA	1.0.3.GA
JBoss XB	2.0.1.GA	1.0.0.SP3
JavaServer Faces	1.2_13	1.2_10

コンポーネント	EAP 5.0.0	EAP 4.3.0 CP06
JacORB	2.3.1.jboss.patch01	2.3.0.jboss.patch6
JPA	1.0.0	対象なし
JBoss Security	2.0.4.SP1	対象なし
JBoss Profiler-jvmti	1.0.0.CR5	1.0.0.CR5
Seam	2.2.0.EAP5	1.2.1.AP
RichFaces (Seam 内)	3.3.1.GA	対象なし
JON JASA コンソール	1.3.2.GA	対象なし
mod_jk	1.2.28	対象なし
mod_cluster	1.0.2.GA	対象なし



注記

JBoss Web Services CXF 3.1.2.SP2 is also provided as a Technology Preview.

4. インストールに関する注意

4.1. Installing JBoss Enterprise Application Platform

JDK や JBoss Enterprise Application Platform のインストールに十分なディスク領域の他、アプリケーション用の領域も確保しておく必要があります。正常に動作する JDK 1.6 をインストールしておく必要があります。サポート対象のオペレーティングシステムと JVM の組み合わせや、サポート対象のデータベースプラットフォームに関する最新情報、および現在のコンポーネントのレビジョン情報については、http://www.redhat.com/docs/en-US/JBoss_Enterprise_Application_Platform/ のインストールガイドを参照してください。インストールガイドには、JBoss Enterprise Application Platform のインストール方法やインストールの検証方法が記載されています。

4.2. デフォルトの起動プロフィール

デフォルトの起動プロフィールは **default** で、デフォルトのサービスセットを含むベースの Java EE 5 サーバプロフィールになります。Java EE 5 アプリケーションをデプロイするために必要となる最も頻繁に使用されるサービスが含まれます。JAXR サービスや IIOP サービス、その他のクラスタ化サービスは含まれません。

The **default** profile is not intended for production use or for the running of load, stress, availability or performance tests.

4.3. ソースファイル

ソース ZIP

- <ftp://ftp.redhat.com/pub/redhat/jbeap/5.0.0/en/source/jboss-eap-src-5.0.0.GA.zip>

5. 製品サポート

バグ、潜在的なバグ、開発における問題や質問については、JBoss カスタマサポートポータルより JBoss サポートケースとして登録してください。

6. ドキュメント

含まれるドキュメントの一覧を確認するには、ドキュメントディレクトリにある `index.html` ファイルを参照してください。本リリースでは、すべての API ドキュメント、コードサンプル、オンラインリリースノートへのリンクがディストリビューションに含まれています。他のガイドやドキュメントはすべて http://www.redhat.com/docs/en-US/JBoss_Enterprise_Application_Platform/ にてオンラインで確認できます。

In the ZIP, the included distribution for the Platform and its individual components can be found in a separate ZIP file, **jboss-eap-docs-<version>.zip**.

オンラインのドキュメントには次の重要なガイドが含まれています。

- **Installation Guide** は、異なるインストールモードを使用して JBoss Enterprise Application Platform をインストールする方法やインストールを検証する方法を説明します。
- **Getting Started** details the directory structure of the platform and a quick tour of the Application Server and different configuration sets and services.
- **Administration and Configuration Guide** はすべての管理およびサーバー設定関数を詳細に説明します。

オンラインドキュメントは必要に応じて更新されるため、新しいバージョンの JBoss Enterprise Application Platform がリリースされた時は必ずチェックするようにしてください。

7. 本リリースで修正された問題

本リリースで修正された問題の一覧は次の通りです。

JBoss Application Server

- **JBPAPP-2866**: JGroups プロトコルスタックに不適切な診断アドレス **224.0.0.75** が含まれていました。このアドレスは **224.0.75.75** に修正されました。
- **JBPAPP-2306**: First Customer Ship の HP-UX 初期スクリプト `jboss_init_hpux.sh` により、バインドアドレスに `-b` オプションを定義することができませんでした。このオプションに対するサポートがスクリプトに追加されました。

JBoss Messaging

- **JBPAPP-2924**: JBoss Enterprise Application Platform 5.0 の First Customer Ship リリースと General Availability リリースの間に、同梱の JBoss Messaging が 1.4.3 から 1.4.6 へ更新され、JBoss Enterprise Application Platform 5.0 に対するサポートが向上されました。JBoss Messaging 1.4.3 と JBoss Messaging 1.4.6 の違いに関する詳細は、JBoss Messaging のリリースノートを参照してください。

JBoss Seam

- [JBPAPP-2154](#): IceFaces、 Seam-jul、 Wicket 統合などサポートされていないコンポーネントの一部が First Customer Ship に同梱されていました。 サポートされていないコンポーネントや関連するサンプルが削除されました。
- [JBPAPP-2155](#): First Customer Ship に含まれていた Seam ドキュメントに、 JBoss でないコンテナに関する未証明の情報やサポートされていない情報が含まれていました。 サポートされていない情報はドキュメントから削除され、 サポート対象でないコンテナのサンプルも削除されました。

JBoss Hibernate

- [JBPAPP-2900](#): MySQL uses the **TEMPORARY** keyword to bypass implicit transaction commits. Previously, Hibernate used **<CREATE TEMPORARY TABLE>** with **<DROP TABLE>**. Omitting the **TEMPORARY** keyword caused an implicit commit, and immediate failure within an XA Transaction. **<DROP TEMPORARY TABLE>** is now supported and this issue no longer presents.

ドキュメント

- [JBPAPP-2948](#): **deploy/jmx-remoting.sar** サービスは、 JBoss MBeanServer への標準リモートアクセスを行うために JSR-160 アダプタのインスタンスを作成します。 このサービスは、 JConsole のようなツールと共に使用されます。 現在、 このサービスは安全なアクセスをサポートしていません。 サーバーが **localhost** 以外のアドレスにバインドする実稼働環境では、 潜在的なリスクを伴うため、 アダプタが **deploy** ディレクトリから **docs/examples/jmx** へ移動されました。 実稼働向けにこのアダプタを有効にすることは推奨されません。 開発中にアダプタを再度有効にするには、 アダプタを **deploy** ディレクトリにコピーしてください。

アダプタが **/docs/examples** に移動されました。 再度有効にするには、 アダプタを **deploy** ディレクトリに戻してください。

8. 本リリースにおける既知の問題

リリース時点の既知の問題は次の通りです。

一般的な既知の問題

- [JBPAPP-3036](#): The **jboss_init_hpux** script does not pick up environment variables when executed in the GNU bash shell. This is related to [JBPAPP-2036](#): <https://jira.jboss.org/jira/browse/JBPAPP-2306>.
- [JBPAPP-3035](#): The **-e** and **-H** arguments of the **shutdown.sh** script cannot be used to directly terminate the JVM.
- [JBPAPP-3029](#): The **jboss_init_redhat.sh** script is used to start and stop a server instance under a given user name. When using a non-loopback bind address, calling **jboss_init_redhat.sh stop** results in a **CommunicationException** because of a missing hostname parameter for the remote server the script attempts to contact.
- [JBPAPP-2998](#): When the server is started via a desktop icon, the machine's default Java set is used. This can cause exceptions when a Java version other than JDK 1.6 is used.
- [JBPAPP-2571](#): Running the Microsoft SQL server with Microsoft JDBC drivers 2.0 causes unstable builds in JBoss Messaging. This issue is created by the **Adaptive Buffering** being the default behavior for the driver as this only allows for large values ot be read once by using

the `get<Type>Stream` method. The current workaround for this issue is to change the `responseBuffering` parameter of the JDBC connection URL from being `adaptive`, to being `full` (as it was for version 1.2 of the JDBC driver).

```
<url>jdbc:sqlserver://[host];database=[database];responseBuffering=full;</url>
```

- [JBAS-7049](#): Open JDK 6 に `NullPointerException` チェックがなかったため、Open JDK 6 が使用されるとサーバーマネージャが正常に動作しませんでした。 `imports/server-config.xml` ファイルの `java.security.debug` ステートメントをコメントアウトするとこの問題を回避できます。
- [JBPAPP-2598](#): [JBAS-7049](#) の問題の回避策を適応すると、新しい問題が発生します。Open JDK 6 を使用するセキュリティマネージャを実行しているサーバーが依然起動せず、アクセス拒否エラーも発生します。現在、この問題に対する既知の回避策はありません。
- [JBPAPP-2590](#): IBM JDK 6 を使用する場合、`${JAVA_HOME}/jre/lib/security/java.security` に定義されている `policy.provider` に問題が発生します。デフォルトでは `org.apache.harmony.security.fortress.DefaultPolicy` が使用されますが、`policy.provider=sun.security.provider.PolicyFile` が使用されなければなりません。手作業で調整することがこの問題の回避策になります。
- [JBPAPP-2576](#): 現在、MySQL JDBC ドライバは XA リカバリを正しく実装しません。
- [JBPAPP-2871](#): [JBQA-2610](#) の通り、MySQL 5.0.41 の最適化設定が使用されると、CPU の使用率が上昇し、パフォーマンスやランザクションスループットが低下しました。CPU の使用率を低減し、パフォーマンスを向上させるため、MySQL 5.0.86 へアップグレードし、[JBQA-2610](#) の通りに最適化設定を適応することが推奨されます。
- [JBPAPP-2162](#): Sun JAXB は拒否すべきである致命的でないエラーのメッセージを許可しません。 [JBPAPP-2114](#) の修正がこの問題を修正するため、悪いメッセージは拒否されます。
- [JBPAPP-2765](#): ロードの失敗が予期されていたり意図的であっても、`LoadMgr3` はクラスのロードに失敗した際にエラーとしてログします (例えば、Seam の場合、特定のクラスが見つからないと不必要なコンポーネントを向こうにするため例外をキャッチします)。
- [JBPAPP-2894](#): `jpa-deployers-jboss-beans.xml` 内の `hibernate.bytecode.provider` システムプロパティは信頼できません。この問題を回避するには、`-Dhibernate.bytecode.provider=cglib` を `jboss-as/bin/run.conf` の `$JAVA_OPTS` に追加します。
- [JBPAPP-2818](#): 現在 `main/src/bin/run.sh` は、`$JBASS_HOME/bin/run.conf` をプロファイル固有の `$JBASS_HOME/server/$PROFILE/run.conf` で上書きすることを許可しません。
- [JBPAPP-2713](#): `org.jboss.test.xml.DDValidatorUnitTestCase` が頻繁に失敗し、Java 仮想マシンがクラッシュします。この問題の回避策として、`JAVA_COMPILER=NONE` を設定して JIT コンパイラを無効にするか、コマンドラインスイッチ `-Djava.compiler=NONE` を使用します。
- [JBAS-6966](#): IBM ディストリビューションの JDK 6 は `SSLv2Hello` プロトコルをサポートしないため、使用すると `ERROR [AbstractKernelController]` が生成されます。現在、このプロトコルの使用は推奨されません。

Hibernate における既知の問題

- **JBPAPP-3034**: バッチ挿入ステートメントが要求されると、組み込みクラスは考慮されません。この問題の対処策は 2 つあります。1 つ目の対処策は、組み込みクラスが使用される時に **ORDER_INSERTS** を **FALSE** に設定します。2 つ目は、子オブジェクトに **session.save()** を明示的に呼び出し、SQL 挿入要求を強制します。
- **JBPAPP-3032**: **TIME** や **TIMESTAMP** などのデータベース値を返す際、MySQL はミリ秒やマイクロ秒の単位をサポートしていません。
- **JBPAPP-3031**: Sybase では、トランスレータによって **current_timestamp** テキストがメソッドモードとして認識されません。現在、**current_timestamp** に代わる関数を使用する以外に回避策はありません。
- **JBPAPP-3030**: Sybase では、チェーンされたトランザクションモードの間に **SchemaExport** を使用して保存されたプロシージャを作成することはできません。回避策として、次のコードを新しく保存されたプロシージャのすぐ後に追加します。

```
<database-object>
<create>
sp_procxmode paramHandling, 'chained'
</create>
<drop/>
</database-object>
```

- **JBPAPP-2791**: **java.lang.SecurityException** が原因で、Hibernate が **cglib** をバイトプロバイダとして使用するようマップするアプリケーションがデプロイしません。以下のようなエラーメッセージが表示されます。

```
Deployment "persistence.unit:unitName=lobtest.ear/lobtest-ejb-1.0-SNAPSHOT.jar#lobtest-jpa-jndi" is in error due to the following
reason(s): java.lang.SecurityException: class
"com.redhat.gss.lobtest.jpa.Item$$EnhancerByCGLIB$$defd1a7f"'s
signer information does not match signer information of other
classes in the same package
```

これは、JBoss Enterprise Application Platform 5.0 の **cglib.jar** が署名され、cglib によってインストールされたプロキシは、アプリケーションターゲットクラスの署名者情報ではなく **cglib.jar** 署名者情報を使用することが原因です。

The patch for this issue has been released alongside JBoss Enterprise Application Platform 5.0 and can be downloaded from [Red Hat Support](#).

- **JBPAPP-2957**: **EntityRegionAccessStrategy** および **CollectionRegionAccessStrategy** の **evictAll()** メソッドは、トランザクション分離を無視してキャッシュからオブジェクトを削除しようとしています。JBoss Cache はすべてのアクティブなトランザクションに対し可視できるため、トランザクション分離を無視することは現在サポートされていません。そのため、トランザクションを使用してキャッシュ内のデータへのアクセスを制御します。
- **JBPAPP-2945**: PostgreSQL 8.3.7 は、PreparedStatement に対するクエリタイムアウトの設定をサポートしていません。この制限により、次のようなアノテーションを使用するとクエリに失敗します。

```
@QueryHint(name = "org.hibernate.timeout",
value = "100")
```

- **JBPAPP-2892:** Enterprise JavaBean 3.0 のエンティティが楽観的なキャッシング (optimistic caching) に使用されると、**org.jboss.ejb3.entity.OptimisticJBCCache.DataVersionAdapter.newerThan** が **A.newerThan (A)** に対して適切でない **true** を返します。これにより、JBoss Cache が エントリを削除しようとするとき **DataVersioningException** が発生します。この問題の回避策として、楽観的なキャッシングの代わりに多版型同時実行制御 (**mvcc-entity**) を使用します。例外が発生しない場合でも回避策の適用が推奨されます。
- **JBPAPP-2867:** Sybase は現在 Hibernate の **Blob** や **Clob** をサポートしておらず、Hibernate は Sybase の **text** や **image** データタイプをサポートしていません。この問題を回避するには、Sybase の **text** と **image** タイプにマップするユーザー定義のタイプを作成します。
- **JBPAPP-2789:** 宣言されたモデルによって暗黙に固有として定義される列に、冗長な **@Column(unique=true)** や **UniqueConstraint(columnnames={...})** アノテーションが使用されると、Oracle や Sybase 上で **SchemaExport** に失敗します。この問題を回避するには、冗長な **@Column(unique=true)** や **UniqueConstraint(columnnames={...})** アノテーションを削除します。
- **JBPAPP-2613:** DB2 v9.7 ドライバをプログレッシブストリーミング (デフォルト) と使用すると、**Blob** ロケータや **Clob** ロケータ上の操作に失敗します。この問題を回避するには、リンク先の JIRA に推奨されている通り、接続プロパティを使用してプログレッシブストリーミングを無効にします。
- **JBPAPP-2408:** ID やネーティブ ID ジェネレータを Hibernate で使用する際、DB2 v9.7 ドライバに問題がありました。DB2 の **Statement.getGeneratedKeys()** ドライバメソッドが、生成された鍵でなく空の **resultset** を返すため、ネーティブに生成された ID 値をデータベースが返さなかったという内容の例外を Hibernate がスローする原因となっていました。この問題は、Data Studio 2.2 でリリースされたバージョンの DB2 9.7 JDBC ドライバで修正され、DB2 のウェブサイトよりダウンロード可能です。Hibernate ではこのバージョンの使用が推奨されます。
- **JBPAPP-2278:** 複数のパスより一時エンティティへのアクセス可能で、1つ以上のパスが **Save** 操作をカスケードしない場合、**Save** 操作に失敗することがあります。現在の回避策として、失敗した **Save** を実行する前に一時エンティティを保存します。これが可能でない場合、カスケードマッピングとエンティティマッピングのいずれかまたは両方を変更し、非一時エンティティとなる必要があるエンティティへカスケードする前に一時エンティティが保存されるよう、カスケードパスの順番を変更します。
- **JBPAPP-2277:** Hibernate はアレイに **ClassLoader.loadClass()** を使用しますが、Java 6 よりデフォルトではサポートされなくなりました。 - **Dsun.lang.ClassLoader.allowArraySyntax=true** プロパティを使用するのが現在の回避策です。この回避策は **jboss-eap-5.0/jboss-as/run.conf** のデフォルトのため、デフォルトで適応されます。
- **JBPAPP-2276:** JDK 6 の **HashMaps** および **HashSets** の反復順序が、JDK 5 または 6 を使用するかによって union 節や union サブクラスの列順が異なる原因となっていました。union 節では列順の変更は一貫しているため、クエリの結果は有効ですが、変更がパフォーマンスに影響する可能性があります。
- **JBPAPP-2275:** JDK 6 では Hibernate をコンパイルできません。これは、JDK 6 インターフェースを完全に実装するには、以下のクラスに対してメソッドを追加する必要があるからです。

- `org.hibernate.jdbc.ResultSetWrapper`
- `java.sql.Blob` を実装する `org.hibernate.lob.BlobImpl`
- `org.hibernate.lob.ClobImpl`
- `org.hibernate.lob.SerializableBlob`
- `org.hibernate.lob.SerializableClob`

実行しているアプリケーションが上記クラスにないメソッドを必要とする場合は、`NoSuchMethodError` が生成されます。

- **JBPAPP-2922:** Hibernate は **The CGLIB BytecodeProvider impl is considered deprecated and not recommended for use** を警告します。 `cglib` は廃止されていないため、無視しても問題ありません。
- **JBPAPP-2792:** 列がオーバーフローすると Sybase は新しいエンティティの挿入に失敗しますが、例外をスローしないため、Hibernate は挿入の失敗を認識しません。この問題を回避するには、アプリケーションがエンティティプロパティを検証するようにし、列がオーバーフローしないようにします。
- **JBPAPP-2791:** デフォルト値を指定せずに新しい列を追加すると、**SchemaUpdate** が Sybase ASE 15 テーブルで失敗します。この問題を回避するため、**SchemaUpdate** で新しい列を追加する場合はデフォルト値が含まれるようにしてください。
- **JBPAPP-1613:** Null values for columns mapped as **Boolean** in Sybase are persisted as **0** instead of **null**. The workaround for this issue is to map **type="org.hibernate.test.where.NumericTrueFalseType"** instead of **type="boolean"**.
- **JBPAPP-1554:** Sybase only allows only one entry (for example, column name or **) in a subquery select list. The HQL function, **elements()**, fails when the collection elements have a composite ID, because the generated SQL contains a subquery select list with multiple entries. The workaround is to avoid using HQL **elements()** if the elements have a composite key. Instead, reformulate the HQL so that no subquery has multiple entries in its select list.
- **JBPAPP-1547:** **org.hibernate.dialect.SybaseASE15Dialect.areStringComparisonsCaseInsensitive()** returns **false** and is not overridden by **SybaseDialect**.
- **JBPAPP-1545:** Sybase でクエリに 1 つの ANSI 結合と 3 つ以上の結合が存在し、1 つの結合に union サブクラスが関係する場合、**SySQLException** によりクエリに失敗することがあります。これは、列が結合されたテーブル表現の範囲内にはないからです。union サブクラスが関係する結合フェッチを使用しないことが推奨されます。
- **JBPAPP-2858:** 自動改ページが試行されると一部のデータベースやクエリに対する **getSingleResult()** に失敗します。この問題を回避するには、**getSingleResult()** の代わりに **getResultList()** **getSingleResult()** を使用します。
- **JBPAPP-1998:** **EntityManager** が別の **EntityManager** によって更新されたエンティティを削除しようとした場合、**hibernate.jdbc.batch_versioned_data** がデフォルト値である **false** に設定されていると、楽観的ロックの失敗の際に **OptimisticLockException** ではなく不適切な **EntityNotFoundException** がスローされます。
- **JBPAPP-1230:** **DetachedCriteria** がサブクエリとして使用されると、生成された SQL のサ

ブクエリに列別名が含まれます。Sybase ではサブクエリの列別名は許可されていないため、Sybase では **SySQLException** がスローされます。この問題を回避するには、サブクエリに **DetachedCriteria** を使用する代わりに HQL クエリを使用します。

- **JBPAPP-1123**: When **@OrderBy** is used on joined classes (using a join table), the generated SQL is invalid on MySQL, PostgreSQL, Oracle, and MSSQL because the "order by" clause qualifies the columns using the actual table name. The "order by" clause should use the table alias instead.
- **JBPAPP-1082**: 初期化されていない **char** プロパティが使用されると、Hibernate が **char** プロパティを **0** に初期化し、**\u0000** を含むストリングを永続します。PostgreSQL は **\u0000** が組み込まれたストリングを許可しないため、例外がスローされます。この問題を説明する電子メールスレッドは、以下で確認できます。
 - <http://markmail.org/message/jvzlxw6ui2rcsmv#query:\u0000%20postgresql+page:1+mid:gpu3>

現在、PostgreSQL を使用した際に **char** 列に永続する **\u0000** に対して、回避策はありません。

初期化されていない **char** プロパティに対して **\u0000** の代わりに NULL を永続させる場合は、プリミティブ **char** タイプの代わりに **java.lang.Character** を使用します。これにより、プロパティが初期化された際に例外が発生しないようにします。**\u0000** に設定された **java.lang.Character** を永続しようとしても例外が発生します。

- **JBPAPP-1071**: 場合によっては、主キー列に外部キーの制約が定義されていると、**CREATE TABLE** ステートメントを生成する際に **SchemaExport** によって列が null 可能であると誤って宣言されることがあります。この場合、主キー列が null 不可能でなければならない MSSQL、DB2、Sybase では障害が発生します。

この問題を回避するには、下記のように null 不可能な列を明示的に指定します。

- **nullable=false** を **@JoinColumn** に追加します。
- **optional=false** を **@ManyToOne** に追加します。
- Add an **@AttributeOverride** with **@Column(name="mapkey", nullable=false)** in case of a **@CollectionOfElements** using a Map
- **@CollectionId** 内または **@MapKey** 内の場合、**@Column** に **nullable=false** を追加します。
- **JBPAPP-3010**: The **evict(Object)** method in **EntityRegionAccessStrategy** and **CollectionRegionAccessStrategy** attempts to remove objects from the cache without regard for transaction isolation. This is currently unsupported because JBoss Cache's **removeNode** method does not deal with transactions.
- **JBPAPP-3019**: **doc/examples/jboss-web-services-examples** コンテキストが例外が発生する原因となっています。このコンテキストエラーは、JBoss Web Services のサンプルが正しく動作しないことを意味します。

JBoss Messaging における既知の問題

- **JBPAPP-3023**: JBoss Enterprise Application Platform 4.3 に同梱される JBoss Messaging では、ユーザーが **app1/emails** などの階層名を用いてメッセージキューを宣言でき、階層名のスラッシュ (/) により **queue/app1/emails** のようなネストされた JNDI コンテキストが作

成されました。この動作は現在 JBoss Enterprise Application Platform 5.0 ではサポートされていません。この問題には 2 つの回避策が存在します。

1. 自動作成を使用せずに、設定ファイル内にキューやトピックを作成します (推奨)。
 2. **destination** 属性 (デスティネーションの JNDI 名を示す) を変更して階層的でないようにします。例えば、**queue/somequeue** から **somequeue** に変更します。
- **JBPAPP-1745**: JBoss Transactions がバージョン 4.4.0 からバージョン 4.6.1 にアップグレードされると、JBoss Messaging の **XAResourceRecoveryTest** に失敗します。このテストはコミット処理中の障害をシミュレートし、Recovery Manager にトランザクションをリカバリするよう要求するものですが、JBoss Transactions 4.6.1 ではトランザクションがリカバリされません。この障害を回避するには、以下のコードで Recovery Manager を手動で起動します。

```
recoveryManager =
RecoveryManager.manager(RecoveryManager.INDIRECT_MANAGEMENT);
```

- **JBPAPP-1746**: JGroups がバージョン 2.6.13 にアップグレードされると、JBoss Messaging の **LargeClusterTest** に失敗します。このテストは、テストを実行する前に 1 台のマシン上で 7 つのノードを開始しようとしていますが、開始しないノードがあります。ノード数を減らすとテストに合格します。
- **JBPAPP-2033**: **jboss.messaging.ServerPeer** JMX インターフェース上の **EnableMessageCounters** を **true** に設定することができません。この問題を回避するには、同じ JMX インターフェース上で **enableMessageCounters()** 操作を呼び出すようメッセージカウンタを有効にします。

JBoss Web Services における既知の問題

- **JBPAPP-3028**: JBoss Web Services 2.0.1.SP から JBoss Web Services Native 3.1.2.SP へのアップグレードには、多くの変更や新機能が含まれます。一部の新しい機能 (リソースインジェクション、**@PostConstruct** のサポート、**@PreDestroy** など) に必要となる追加の処理時間により、全体のパフォーマンスが若干劣化します。

RESTEasy における既知の問題

- **JBPAPP-2991**: **doc/examples/resteasy-examples/api-clients** にある API クライアントサンプルの **readme** ファイルに、Twitter サンプル設定に対して無効なコマンドが含まれています。

```
Twitter Client:
- Run:
  mvn exec:java -
  Dexec.mainClass="org.jboss.resteasy.examples.twitter.Twitter" -
  Dexec.args("<userId> <password>")
```

そのコードを次のものに置き換えます。

```
Twitter Client:
- Run:
  mvn exec:java -
  Dexec.mainClass="org.jboss.resteasy.examples.twitter.TwitterClient"
  -Dexec.args("<userId> <password>")
```

`doc/examples/resteasy-examples/api-clients/` には 2 つの余分な Eclipse プロジェクトファイル、`.classpath` と `.project` が含まれています。この 2 つのファイルを削除することが推奨されます。

- [JBPAPP-2992](#): `doc/examples/resteasy-examples/resteasy-springMVC/README.txt` にある Spring MVC サンプルの `readme` ファイルに無効な URL が含まれています。現在の URL は次の通りです。

```
List all available contacts:  
http://localhost:9095/contacts
```

これを次に置き換えます。

```
List all available contacts:  
http://localhost:8080/contacts
```

Seam における既知の問題

- [JBPAPP-2385](#): Seam's Spring example fails with an **IllegalStateException** when the login form is submitted on the IBM virtual machine. This is due to a defect in the IBM virtual machine. The fix for this issue has been deferred until the IBM virtual machine has been fixed.
- [JBPAPP-2377](#): IBM 仮想マシン上で新しいブログエントリが提出されると、SeamSpace サンプルが **NullPointerException** により失敗します。これは、IBM 仮想マシンの不具合が原因です。この問題の修正については、IBM 仮想マシンが修正されるまで保留されます。
- [JBPAPP-3001](#): 本ディストリビューションに含まれる seam スクリプトには実行可能パーミッションセットがありません。実行可能パーミッションセットは、JBoss Enterprise Application Platform 5 の次回リリースに含まれる予定です。

9. TECHNOLOGY PREVIEWS

This section describes the Technology Preview features released alongside JBoss Enterprise Application Platform, their installation, and any known issues.



警告

Technology Preview features are not fully supported under Red Hat subscription level agreements (SLAs), may not be functionally complete, and are not intended for production use. However, these features provide early access to upcoming product innovations, enabling customers to test functionality and provide feedback during the development process. As Red Hat considers making future iterations of Technology Preview features generally available, we will provide commercially reasonable efforts to resolve any reported issues that customers experience when using these features.

9.1. JBoss Web Services CXF



警告

You should make a complete backup of your JBoss Enterprise Application Platform installation before installing JBoss Web Services CXF.

Follow these steps to install JBoss Web Services CXF:

1. Download and unzip the **jbossws-cxf-3.1.2.SP3-3.SP3.6.ep5.e14-tp-installer.zip** in the home directory (your **\$JBOSS_HOME**) of a pristine Enterprise Application Platform installation.
2. Run **ant** in the created directory, **jbossws-cxf-tp-installer**.



注記

This step will replace JBoss Web Services Native with JBoss Web Services CXF in every configuration that contains JBoss Web Services Native.

Documentation is available from the JBoss.org Wiki: <http://community.jboss.org/wiki/JBossWS-StackCXFUserGuide>.

9.1.1. Known Issues with JBoss Web Services CXF

- [JBPAPP-3267](#): Running **ant deploy-jboss510** from the stack checkout directory or a generated binary distribution does not result in a working application server configuration. This occurs primarily as a result of changes to **src/main/scripts/assembly-deploy-artifacts.xml**, which were made to produce the **tp-installer**.

9.2. JBoss mod_cluster

mod_cluster is an httpd-based load balancer. Like **mod_jk**, it uses a communication channel to forward requests from httpd to an application server node.

See the **mod_cluster** documentation available from http://www.redhat.com/docs/en-US/JBoss_Enterprise_Application_Platform/ for installation instructions.

9.2.1. Known Issues with JBoss mod_cluster

- [JBPAPP-3724](#): In **mod-cluster-jboss-beans.xml**, the default value for **maxAttempts** is incorrectly set to **-1**. This value is invalid. The correct value, **1**, is used by default.
- [JBPAPP-3463](#): When an application is undeployed, sessions that were forwarded to the application server by **mod_cluster** before undeploy notification was received may result in an error 503 - This application is not currently available.
- [MODCLUSTER-123](#): If the **root** context ("/") is deployed and enabled, other contexts cannot be disabled. It is also impossible to specify that other contexts not be forwarded to the **root** context.

- [MODCLUSTER-120](#): Should you encounter an **[emerg] create_mem_node <node file path> failed** error, use the **ipcrm -m** command before restarting httpd.
- [MODCLUSTER-113](#): **org.jboss.modcluster.demo.servlet.ThreadCountLoadServlet** has been removed from `mod_cluster` but is still specified in the `web.xml` file belonging to `load-demo.war`. This results in deployment errors. The workaround for this issue is to remove the `<servlet>` and `<servlet-mapping>` sections for the `threads` servlet.

A. 改訂履歴

改訂 1.0-8.400 Rebuild with publican 4.0.0	2013-10-31	Rüdiger Landmann
改訂 1.0-8 Rebuild for Publican 3.0	2012-07-18	Anthony Towns
改訂 1.9-0 JIRA の修正	Tue Feb 02 2010	Laura Bailey